



天河大弁財天から伊勢神宮へ

高橋 司 たかはし・つかさ

弁護士。1963年生まれ。北海道大学大学院法学研究科修了。「高橋・白浦法律事務所」代表。

平成30年11月30日、私は新千歳空港発関西国際空港行きのフライタカーにて奈良県吉野郡天川村にある天河大弁財天を参拝した。ちょうど昨年の11月初旬にも参拝したことがあり、毎年参拝したい素敵な場所だなあと思い続けていたことから再びの参拝となつた。

天川村は源義経が静御前と別れて身を潜めた地であると言われておらず、古くから修験者たちの聖地であるとも言われている。縁がなければたどり着けない場所であると言われ続けていたが、空港からはナビが教えてくれるままに車両を走行させ昨年以上に問題なく行き着くことができた。日没近い時間帯であったがしつかりと思いを込めて参拝することができた。昨年以上に拝殿の鈴緒の先にある五十鈴をゆつくりと眺め、自分の力をしつかり伝えながら五十鈴を鳴らし、その響きに身を委ねてしまし目を瞑っていた。

日没も近づき、私はレンタカーに乗りして宿泊先である三重県尾鷲市に向かつた。再びナビを頼りに車を走道309号線であつた。行者環林道とも称呼される深い谷に沿つて走るハードな山岳路であつた。その大部分が1車線しかない狭い道路であり合うことも相当難しい幅員であつた。前向車両が走行してくるならば譲り合照灯を点け対向車両が走行してこないことを祈りながらひたすら上北山村に向けて走行していった。運良く対向車両は走行して来なかつたが、30分ほど走行したところで国道309号線は通行止めとなつていた。

その時、対向車両が走行してこなかつたことに合点がいった。Jターンする事にも難儀する道路状況であつたが、何度も切り返しをして転回すことができた。すでに辺りは真っ暗になつていて天河大弁財天に向かつた。ただ、高速道路から見える山の傾斜はずいぶんと樹木が倒れていった。これからも多くの時間をかけて復旧することになるであろう情景を見た時、台風の残した爪痕の深さを感じた。

高速道路を通行しての伊勢神宮までの道のりはあつという間であつた。外宮を参拝し、その後、バスにて内宮に移動して時間をかけて参拝した。迷つてしまつたという投稿記事であつた。私は、昨年も今年も大阪府方面へ参拝しようと思いつつ検索をした時に目に付いた記事、すなわち、狭い道路をひたすら走り続けて迷つてしまつた。それは伊勢神宮も同じことだろう。1年を振り返り、いろいろな方々に移動して時間をかけて参拝した。いつもよりも参拝する方が数多くいてびっくりした。従前は大きく感じていた参道の白い砂利が小さく感じられたが、その時にナビに表示された経路が天川村と上北山村を結ぶ国道309号線であつた。行者環林道とも称呼される深い谷に沿つて走るハードな山岳路であつた。その大部分が1車線しかない狭い道路であり合うことも相当難しい幅員であつた。前向車両が走行してくるならば譲り合照灯を点け対向車両が走行してこないことを祈りながらひたすら上北山村に向けて走行していった。運良く対向車両は走行して来なかつたが、30分ほど走行したところで国道309号線は通行止めとなつていた。

その後は、ずいぶんと回り込んで尾鷲市にたどり着いた。翌朝は早めに高速道路を通り伊勢神宮に向かつた。昨日までの狭き道路を走り続けたことが嘘のように走りやすかつた。ただ、高速道路から見える山の傾斜はずいぶんと樹木が倒れていった。これからも多くの時間をかけて復旧することになるであろう情景の方々の気持ちである。周りは真っ暗で渓谷や川面が見えていたわけではなかつたが、天河大弁財天への参拝は、関西国際空港と天河大弁財天とを点と点として結んだ狭い空間で感じてはいけないのかかもしれない。それは伊勢神宮も同じことだろう。1年を振り返り、いろいろな方々にお世話になつたことに思いを馳せ、それがけつして当たり前のことでないことをもつと素直に心に刻める人間になりたい。